



欄に数値またはコメントを記入

## 1. 建物概要

建物名称 (仮称)富士見台1丁目マンション新築工事	BEE 0.9	BEEランク B-	★★
------------------------------	------------	--------------	----

## 2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.6	/5	がんばろう
"災害に強いしづおか"の形成 (Disaster)	2.8	/5	がんばろう
"しづおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.6	/5	がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3	/5	がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例 よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

## 3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。	内訳対応項目
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>	得点 2.6
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ③住戸の主要居室の昼光率を2.4%、共用部は0.6%を確保し、上階ハルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において昼光を制御しやすくした。 ④タイル貼の耐用年数は40年	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 舳体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地の57%を空き地とし、風の通り道を確保した。	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.91になるように一次エネルギーの消費を抑えた。 ⑩各階EPSIに、各戸の電力量計がある。	LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬断熱材は、ODP=0の材料を使用し、オゾン層を破壊しないようにした。	LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築軸体等の継続使用 2.3 ⑫ 舳体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 舳体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑯ライフサイクルCO2排出率を、一般的な建物の96%となるよう設計した。 ⑯隣等間隔指数0.66を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいうようにした。	LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善
<b>"災害に強いしづおか"の形成 (Disaster)</b>	得点 2.8
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰電気設備・通信設備とともに、浸水する危険性がない。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備
<b>"しづおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>	得点 2.6
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑯(⑰) ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑯(⑰) 階高のゆとり 3.1.2 ⑯(⑰) 空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯カメラを設置し、防犯性に配慮した。	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>	得点 2.3
■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉔敷地の57%を空き地とし、風の通り道を確保した。	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ⑥ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ㉖隣等間隔指数0.66を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいうようにした。	LR-2 2 2.5 ㉕ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ㉖ 温熱環境悪化の改善

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版|追補版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)富士見台1丁目マンション新築	階数	地上5F
建設地	静岡県静岡市駿河区富士見台一丁目	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	90人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年8月 予定	評価の実施日	2025年2月6日
敷地面積	1,169 m <sup>2</sup>	作成者	早野真介
建築面積	463 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,079 m <sup>2</sup>	確認者	

  

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)																					
BEE = 0.9		30%: ★★★★☆ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★	30%: ★★★★☆ 60%: ★★★★☆ 80%: ★★★☆ 100%: ★★☆ 100%超: ☆																						
BEE = 0.9 S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★  100 50 0 G 環境効率 100 3.0 1.5 BEE=1.0 50 0.5 0 環境負荷 L		 30%: ★★★★☆ 60%: ★★★★☆ 80%: ★★★☆ 100%: ★★☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+		 Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR3 敷地外環境 LR2 資源・マテリアル																					
2-4 中項目の評価(バーチャート)																									
<b>Q 環境品質</b> <b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 3.0		<b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 3.0		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア= 2.5																					
音環境 3.0 温熱環境 3.0 光・視環境 3.3 空気質環境 3.0		機能性 3.0 耐用性 3.1 対応性 3.1		生物環境 2.0 まちなみ 3.0 地域性* 2.5																					
<b>LR 環境負荷低減</b> <b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 2.7		<b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 2.9		<b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 2.9																					
建物外皮の 2.0 自然エネ 2.0 設備システ 2.9 効率的 3.5		水資源 3.0 非再生材料の 2.8 汚染物質 3.3		地球温暖化 3.1 地域環境 2.5 周辺環境 3.2																					
<b>3 設計上の配慮事項</b> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>総合</b> これは、CASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価である。</td> <td colspan="2"><b>その他</b> (特になし)</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>Q1 室内環境</b> 住戸の主要居室の層光率を2.4%、共用部は0.07%を確保し、上階バルコニー(底の代用)やカーテンを用いることにより、室内において層光を制御しやすくした。</td> <td colspan="2"><b>Q2 サービス性能</b> 各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>LR1 エネルギー</b> 住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.91になるように一次エネルギーの消費を抑えた。</td> <td colspan="2"><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地の57%を空き地とし、風の通り道を確保した。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"><b>Q2 サービス性能</b> 各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地の57%を空き地とし、風の通り道を確保した。</td> </tr> </table>						<b>総合</b> これは、CASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価である。		<b>その他</b> (特になし)		<b>Q1 室内環境</b> 住戸の主要居室の層光率を2.4%、共用部は0.07%を確保し、上階バルコニー(底の代用)やカーテンを用いることにより、室内において層光を制御しやすくした。		<b>Q2 サービス性能</b> 各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。		<b>LR1 エネルギー</b> 住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.91になるように一次エネルギーの消費を抑えた。		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地の57%を空き地とし、風の通り道を確保した。				<b>Q2 サービス性能</b> 各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。				<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地の57%を空き地とし、風の通り道を確保した。	
<b>総合</b> これは、CASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価である。		<b>その他</b> (特になし)																							
<b>Q1 室内環境</b> 住戸の主要居室の層光率を2.4%、共用部は0.07%を確保し、上階バルコニー(底の代用)やカーテンを用いることにより、室内において層光を制御しやすくした。		<b>Q2 サービス性能</b> 各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。																							
<b>LR1 エネルギー</b> 住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.91になるように一次エネルギーの消費を抑えた。		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地の57%を空き地とし、風の通り道を確保した。																							
		<b>Q2 サービス性能</b> 各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。																							
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地の57%を空き地とし、風の通り道を確保した。																							

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケーブルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケーブルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される